稲 作 技 術 情 報 No. 3

令和4年7月1日
鳥取県産米改良協会

■中国地方の梅雨明けは6月28日頃で、平年より21日（昨年より15日）早く、6月14日（梅雨入り）から27日にかけての降水量も平年より少ない状態が続いています。また、今後も気温が高くなる予報です。

■用水不足が心配されるため、用水不足が解消されるまでは「番水」や「節水栽培」に取り組みましょう。

・中干し後、幼穂形成期までは湛水を伴わないが土が湿った状態で管理し、幼穂形成期以降は湛水を伴う間断かん水とする。

■中干しの最後のチャンスです。

・目標茎数を確保したら直ちに中干しを行うこと。中干開始が遅れると、籾数が増えすぎ、くず米が増えます。
・7～10日程度を目安に、田んぼに立って靴底が軽く沈み、スタスタ歩けるくらいまで干すこと。
・ただし、地面に強いひび割れが入ると漏水を助長するため、ほ場が乾きやすい場合は、中干し期間を短縮する。
・中干し終了後はいきなり湛水せず3日程度走り水を行い、以降は間断灌漑を行うこと。
・適正な中干しにより、根の健全化、倒伏防止、適正籾数確保につなげ、品質・食味の向上を図りましょう。

■「平年並～高い気温が予想されます」
→穂肥の適正施用により、品質食味の安定化を図りましょう。

・登熟期の肥切れは白濁粒の増加や粒張りの低下を助長し、品質を著しく低下させます。
・「コシヒカリ」「星空舞」「ひとめぼれ」は早期倒伏の防止に留意しながら稲の状態にあわせてきちんと、倒伏に強い「きぬむすめ」は時期が来れば積極的に、穂肥を施用しましょう。

Ⅰ 天気概況

1 天気予報

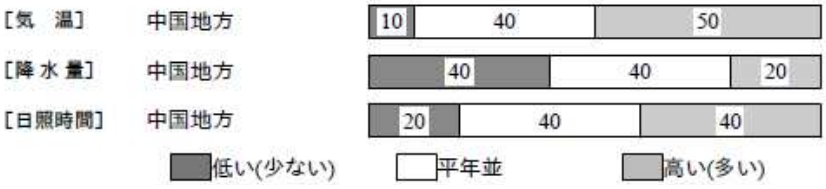
中国地方　1か月予報
（7月2日から8月1日までの天候見通し）

令和４年６月３０日
広島地方気象台発表

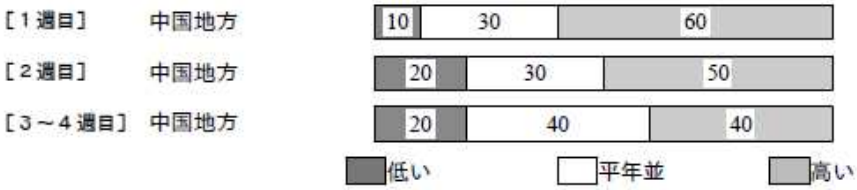
＜特に注意を要する事項＞
期間のはじめは、降水量の少ない状態が続く見込みです。

＜予想される向こう１か月の天候＞
向こう１か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。
期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
向こう１か月の平均気温は、高い確率５０％です。降水量は、平年並または少ない確率ともに４０％です。日照時間は、平年並または多い確率ともに４０％です。
週別の気温は、１週目は、高い確率６０％です。２週目は、高い確率５０％です。３～４週目は、平年並または高い確率ともに４０％です。

＜向こう１か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞



＜気温経過の各階級の確率（%）＞



＜予報の対象期間＞
1か月　：　7月　2日（土）～　8月　1日（月）
1週目　：　7月　2日（土）～　7月　8日（金）
2週目　：　7月　9日（土）～　7月15日（金）
3～4週目　：　7月16日（土）～　7月29日（金）

＜次回発表予定等＞
1か月予報：毎週木曜日　14時30分　次回は7月7日
3か月予報：7月19日（火）　14時

中国地方　3か月予報
（7月から9月までの天候見通し）

令和4年6月21日
広島地方気象台発表

＜予想される向こう3か月の天候＞
向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。
この期間の平均気温は、高い確率50%です。

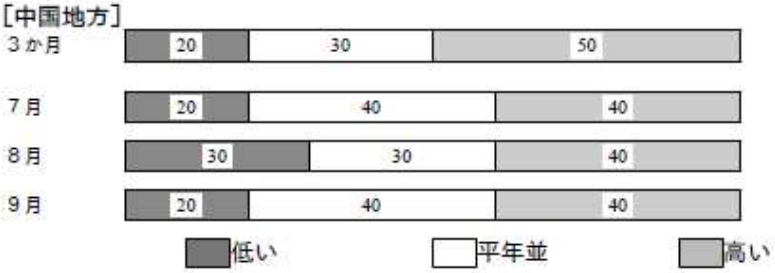
7月　期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

8月　平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

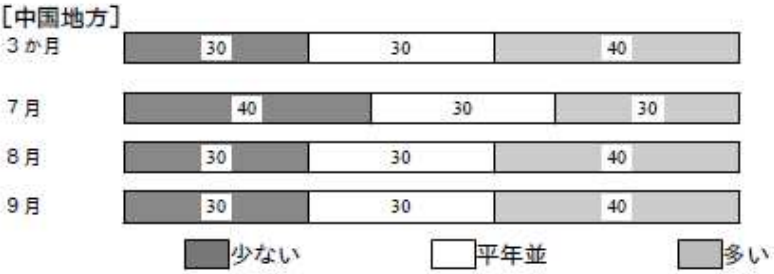
9月　天気は数日の周期で変わるでしょう。
気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

＜向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率（%）＞

＜＜気温＞＞



＜＜降水量＞＞



＜次回発表予定等＞
1か月予報：毎週木曜日　14時30分　次回は6月23日
3か月予報：7月19日（火）　14時
なお、7月の予報については、新しい資料による次回以降の1か月予報を適宜ご利用ください。

2 気象経過

（鳥取）

時期	気温(℃)						日照時間		降水量	
	令和4年			平年差			4年	平年	4年	平年
	平均	最高	最低	平均	最高	最低	(hr)	比	(mm)	比
4上	11.8	18.6	5.3	0.5	1.6	-0.6	95.2	172	0.0	0
中	14.8	21.1	9.4	1.7	2.3	1.9	67	115	47.0	143
下	16.7	21.4	12.4	1.7	0.5	3.0	47.2	74	82.5	264
5上	15.7	22.7	9.2	-1.4	-0.2	-2.4	85.9	133	1.0	3
中	18.6	24.3	13.7	0.8	0.9	1.3	52.1	81	25.0	53
下	21.0	27.3	15.1	1.6	2.2	0.8	92.7	128	22.0	53
6上	20.2	26.3	15.0	-0.5	0.2	-1.0	76.3	124	30.0	101
中	22.6	27.9	18.4	0.6	1.0	0.4	63.3	121	15.0	32
下	28.3	33.4	23.6	4.9	5.6	3.8	74.8	187	42.5	61

（茶屋）

時期	気温(℃)						日照時間		降水量	
	令和4年			平年差			4年	平年	4年	平年
	平均	最高	最低	平均	最高	最低	(hr)	比	(mm)	比
4上	7.7	16.8	-1.1	0.0	2.4	-2.2	102.3	180	0.0	0
中	10.9	18.6	3.9	1.3	2.2	1.3	68.3	117	22.5	53
下	13.4	20.1	7.1	1.7	1.7	2.5	51.7	83	100.0	276
5上	12.3	20.5	4.4	-1.8	-0.2	-3.1	84.3	132	0.5	1
中	14.8	20.9	8.9	0.1	-0.1	0.6	50.2	81	24.5	51
下	17.1	24.5	9.4	1.0	2.1	-0.5	90.7	131	7.5	16
6上	16.5	22.8	10.4	-0.9	-0.7	-1.3	66.5	116	48.5	141
中	19.1	24.5	14.3	0.2	0.2	0.2	49.6	101	15.5	26
下	24.2	29.1	19.6	3.8	3.9	3.2	63.1	191	26.5	26

・6月上旬は、平年に比べて気温は低く、日照時間は多く、降水量は多かった。中下旬は、気温は高く、日照時間は多く、降水量は少なかった。

Ⅱ　生育概況、幼穂形成期予測

○現地ほ場

・生育は全体に順調で、目立った病害虫の発生は見られていない。

・茎数確保は順調で、中干しに入っているほ場が多い。

○作況調査ほ場

＜5月10 日移植＞　ひとめぼれ・コシヒカリ

・ひとめぼれは、6 月 30 日に幼穂形成期を迎えた。(平年比 1 日早い)。
葉齢は平年よりやや遅れており、草丈及び葉色は平年並であり、茎数は平年より多い傾向であった。

・コシヒカリは、葉齢、茎数、草丈、及び葉色は平年並であった。

＜5月 24 日移植＞　コシヒカリ・星空舞・きぬむすめ

・コシヒカリは、葉齢及び草丈は平年並であり、茎数は平年より少なく、葉色はやや淡い傾向であった。

・星空舞は、葉齢及び葉色は平年並であり、茎数は平年よりやや多く、草丈は長い傾向であった。

・きぬむすめは、葉齢及び葉色は平年並であり、茎数は平年よりやや少なく、草丈はやや長い傾向であった。

令和４年度　水稲生育状況（農業試験場 作況田）

5月10日移植(4月15日播種)

調査項目		ひとめぼれ			コシヒカリ		
		本年	平年	差・比	本年	平年	差・比
生育ステージ	最高分げつ期	6月28日	6月26日	+2			
	幼穂形成期	6月30日	7月1日	-1			
苗乾物重(mg/本)	田植時	17.8	15.2	117	20.3	16.0	127
葉齢(葉)	田植時	3.4	3.3	+0.1	3.2	3.3	-0.1
	15日後	6.0	6.0	0.0	5.9	5.8	+0.1
	25日後	7.8	7.8	0.0	7.7	7.6	+0.1
	35日後	9.3	9.7	-0.4	9.3	9.5	-0.2
	45日後	10.8	10.9	-0.1	10.8	10.6	+0.2
	幼穂形成期	11.4	11.7	-0.3			
茎数(本/㎡)	田植時	67	67	100	57	57	100
	15日後	80	70	114	58	60	97
	25日後	196	194	101	155	161	96
	35日後	366	355	103	288	310	93
	45日後	568	516	110	435	458	95
	幼穂形成期	576	514	112			
草丈(cm)	田植時	9.2	10.8	85	10.8	11.7	92
	15日後	18.9	20.7	91	21.8	23.7	92
	25日後	21.3	23.6	90	25.6	27.3	94
	35日後	26.7	33.0	81	30.2	34.7	87
	45日後	43.8	46.9	93	48.9	47.8	102
	幼穂形成期	57.0	57.1	100			
葉色(SPAD値)	田植時	24.5	26.2	-1.7	23.1	24.4	-1.3
	15日後	28.8	30.9	-2.1	26.8	29.0	-2.1
	25日後	38.4	37.3	+1.1	38.1	36.4	+1.7
	35日後	37.6	38.7	-1.1	34.9	36.7	-1.8
	45日後	38.3	37.2	+1.1	36.8	36.5	+0.3
	幼穂形成期	35.3	36.5	-1.2			

5月24日移植(5月4日播種)

調査項目		コシヒカリ			星空舞			きぬむすめ		
		本年	平年	差・比	本年	平年	差・比	本年	平年	差・比
苗乾物重(mg/本)	田植時	16.1	15.9	101	16.0	15.9	101	15.9	15.2	105
葉齢(葉)	田植時	3.3	3.4	-0.1	3.2	3.4	-0.2	3.2	3.1	+0.1
	15日後	6.0	6.2	-0.2	6.2	6.3	-0.1	5.9	5.9	0.0
	25日後	8.1	8.1	0.0	8.2	8.2	+0.0	8.1	7.8	+0.3
	35日後	10.1	10.2	-0.1	10.1	10.0	+0.1	10.2	10.0	+0.2
茎数(本/㎡)	田植時	57	57	100	57	57	100	67	67	100
	15日後	62	81	77	63	95	66	77	105	73
	25日後	178	213	84	226	220	103	223	255	87
	35日後	332	404	82	475	446	107	424	470	90
草丈(cm)	田植時	14.4	12.1	119	13.7	11.8	116	13.2	12.8	103
	15日後	26.2	25.1	104	22.5	23.0	98	22.4	22.6	99
	25日後	30.5	30.2	101	27.5	28.5	96	27.0	28.7	94
	35日後	46.1	45.5	101	42.1	37.0	114	45.4	42.6	107
葉色(SPAD値)	田植時	25.9	25.8	+0.1	23.4	26.4	-3.0	25.1	24.9	+0.2
	15日後	28.1	33.4	-5.3	28.1	34.3	-6.2	28.0	32.5	-4.5
	25日後	38.9	36.1	+2.8	38.1	35.9	+2.2	39.7	35.9	+3.8
	35日後	35.0	37.3	-2.3	36.7	37.4	-0.7	36.1	37.3	-1.2

注）平年値は直近5年間の平均値（四捨五入）。ただし星空舞は2018年から栽培のため直近4年間の平均値。

Ⅲ　病害虫発生状況

○いもち病

・6月26日現在、葉いもちの広域発生は確認されていない。気象１か月予報によると、平年に比べ曇りや雨の日が少なく、期間の前半は気温がかなり高いと予想されているが、本田におけるいもち病の伝染源となる置き苗の処分を徹底するとともに、ほ場の見回りを行って、早期発見に努め、発生状況に応じ適切に対応する。

・水稲いもち病発生予測システム（ブラスタム）の判定結果

ブラスタムによる葉いもちの感染好適条件又は準感染好適条件は、6月7日、10日、14日、15日及び17日に広域で出現した（表1）。

表１　ブラスタムによる感染好適日の出現状況

日付	鳥取	青谷	岩井	智頭	倉吉	塩津	米子	境	茶屋
6/1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
6/2	－	－	－	－	－	－	－	－	－
6/3	－	－	－	－	－	－	－	－	－
6/4	－	－	－	－	－	－	－	－	－
6/5	－	－	－	－	－	－	－	－	－
6/6	－	－	－	－	－	－	－	－	－
6/7	－	－	○	－	－	－	－	－	○
6/8	－	－	○	－	－	－	－	－	－
6/9	－	－	－	－	－	－	－	－	－
6/10	－	○	－	－	○	－	－	－	－
6/11	－	－	－	－	－	－	－	－	○
6/12	－	－	－	－	－	－	－	－	－
6/13	－	－	－	－	－	－	－	－	－
6/14	－	○	－	○	○	－	－	－	－
6/15	－	○	○	○	○	○	●	－	○
6/16	－	－	－	－	－	－	－	－	？
6/17	－	○	○	－	○	－	－	－	－
6/18	－	－	－	－	－	－	－	－	－
6/19	－	－	－	－	－	－	－	－	○
6/20	－	－	－	－	－	－	－	－	－
6/21	－	－	－	－	－	？	－	－	－
6/22	－	－	－	●	－	－	－	－	－
6/23	－	－	－	－	－	－	－	－	－
6/24	－	－	－	－	－	－	－	－	－
6/25	－	－	－	－	－	－	－	－	－
6/26	－	－	－	－	－	－	－	－	－

注）●感染好適日、○準感染好適日、？判定不能

※ ブラスタムについて

ブラスタムとは、アメダスの気象データを用いて、葉いもちの感染に好適な条件であったかどうかを広域的に判定するシステムである。いもち病は感染後、発病するまで約1週間かかるため、感染好適日が広域に出現してから、約1週間後に広域に新しい病斑が確認できる。

Ⅳ　技術対策

１ 中干し・水管理

（1）適期に中干しを行う

現時点で茎数が充分に確保されているにもかかわらず、中干しが実施されていない水田が散見される。そのような水田では、根傷みによると見られる下葉の変色が確認され、ほ場に入るとガスが沸く状況である。

コシヒカリ、ひとめぼれの早生品種は近く幼穂形成し、要水量が飛躍的に大きくなる生育段階に入る。幼穂形成期以降に水を切らすことはできないので、現在が中干しをする最後のチャンスである。

(2)中干しの効能

落水による有機酸や硫化水素等の水溶性有害物質の除去、土壌への空気の供給による土壌還元の抑制などにより、根の健全化や無効分げつの発生抑制、下位節間の伸長抑制の効果がある。また、土壌を硬くすることで収穫時の機械作業に備える効果がある。

中干しを行わないと、根の活力が低下することにより、高温登熟に耐えられなくなることが危惧される。また、中干しの遅れは早期倒伏につながる。必ず適期に中干しを実施すること。

さらに、平成26年の調査では中干しを適正に行うことにより、籾数が適正化され、品質や食味が向上することも改めて確認されている。

⑶中干し中にいもち病が発生した場合

中干し中に、いもち病の発生が見られた場合は、直ちに入水し、ケイ酸吸収を促す。なお、上位葉に急性病斑が見られる場合は治療効果を有する薬剤で直ちに防除する。

⑷ひとめぼれの品質向上のために

近年ひとめぼれの品質が低下している。対策として乳白米の発生を軽減するための籾数制御があげられ、そのためには適正な中干し（中干し開始時期を遅くしすぎない、中干し期間を十分にとる）を行うことが重要である。

⑸中干し後の水管理

中干し後は、いきなり湛水せずに、走り水を行った後、ゆっくりと給水し、土を湿潤状態に保ち根の活性維持に努める。2～3日走り水で慣らした以降は間断灌漑で（3日入水、2日干す等）管理する。

2 雑草対策

田植え後に水深を確保できず、除草剤の効果が不十分となっている水田が散見される。雑草を取りこぼした場合、後期除草剤散布により対応する。

このとき、ベンタゾンを含む粒剤と液剤は落水処理する。それ以外の除草剤は湛水散布する。シハロホップブチルを含む粒剤は茎葉吸収を促すため深水とする。

3 病害虫防除

（1）いもち病

○置き苗は、本田のいもち病の伝染源となるため、早急に処分する。

○「コシヒカリ」、「ひとめぼれ」、「きぬむすめ」などの本病に弱い品種の栽培、窒素肥料の多施用、遅植えなどの条件では特に発生しやすいため、注意する。

○育苗箱施用剤を使用しても十分な効果が得られない場合があるため、ほ場の見回りなどを行い、早期発見に努める。

○本田施用粒剤（オリゼメート粒剤等）を使用する場合は、予防防除が基本であり、発生後では十分な効果が得られない。なお、粒剤を使用する場合は、各薬剤の使用基準を確認して湛水散布を行う（湛水散布にあたっては、農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項などを確認して、止水期間を少なくとも1週間とするとともに、農薬の流出を防止するために必要な措置を講じるように努める）。

○本田において上位葉に急性型病斑がみられる場合には、治療効果を有する粉剤、水和剤などを散布し、その後は病勢に応じて追加防除を行う。

○降雨が続く場合は雨の止み間に防除を行い、適期を失しないようにする（粉剤散布後から降雨が3時間程度なければ防除効果は十分にある）。

○平成30年からストロビルリン系薬剤耐性菌の広域発生がみられなかった地域では、本系統薬剤の本田地上散布剤及びヘリ防除剤の再使用が可能である。ただし、耐性菌の再発生を防ぐために、本系統薬剤の同一年における連用と採種ほ場及びその周辺ほ場における使用を控える。

○防除にあたっては、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業者の安全の確保に努める。

4 穂 肥

早い田植えの早生品種で幼穂形成期にさしかかり順次穂肥施用時期となるため、品種・生育量を確認しながら適正かつ積極的に施用する。1回しか出来ない場合、第2穂肥は必ず施用すること。

（1）「ひとめぼれ」「コシヒカリ」「星空舞」の穂肥の考え方

施用時期が早いと倒伏の助長と玄米品質の低下、遅いと食味低下や収穫時に青籾が残り刈り遅れを助長するため、施用に当たっては、特に葉色・草姿の観察を行い、施用時期・施用量を決定する。

（2）「きぬむすめ」「日本晴」の穂肥の考え方

「コシヒカリ」に比べて倒伏しにくく、耐肥性も強いため、「コシヒカリ」の感覚で遅い時期に少量穂肥を施用すると収量品質が大きく低下する。第1穂肥で十分な籾数を確保し、第2穂肥で登熟期間に必要な肥料分を補給することが収量・品質向上のポイントとなる。

「日本晴」については、平成26年に農業試験場において、穂首分化期追肥の有効性が確認されている。（出穂前32日頃に窒素成分で 2kg/10a 追肥することにより7%増収）是非行って増収を目指して欲しい。

（3）第1穂肥ができない場合であっても、第2穂肥は積極的に施用。

高温年では、稲体栄養の呼吸消耗が盛んになり、葉色が早く低下する。登熟期間に光合成能力と稲体の活性を高め、籾への養分転流を促進し、白濁未熟粒を軽減するために**第2穂肥の施用が重要**である。第2穂肥

の施用時期は、「コシヒカリ」「ひとめぼれ」は出穂前10日（葉耳間長0cm時）、「きぬむすめ」「日本晴」では、葉色を極端に低下させないため第1穂肥の10日後に施用するため、出穂前15日（葉耳間長－10cm時）である。

なお、適正時期、適量の施用であれば食味低下の心配はなく逆に玄米の充実度を向上させる効果が期待できる。

穂肥の施用時期・施用量の目安

☆出穂までの日数はその年の気象条件等により大きく変わるため、幼穂長による判断が原則。

品　種	回数	施用時期	施用量（10a当たりの窒素成分量）
ひとめぼれ	第1回	幼穂長3～5mm （出穂前18～20日）	葉色4.0（SPAD34）以下　　2kg
	第2回	第1回目穂肥の10日後	葉色4.5（SPAD37）以下　　2kg
コシヒカリ	第1回	幼穂長8～10mm （出穂前15～18日）	葉色4.0(SPAD35)以下で窒素成分 2kg ※葉色が濃い場合は単葉葉色4.0以下になるまで待って施用する。 ※コシヒカリについて、生育量が多い場合は以下の表を目安に施用時期を遅らせる。　（遅らせる日数）
	第2回	第1回目穂肥の8日後	葉色3.5（SPAD32）以下　　2kg 葉色3.5～4.0(SPAD32～35)　　1kg 葉色4.0（SPAD35）以上　　無施用
星 空 舞	第1回	幼穂長8～10mm （出穂前15～18日）	葉色4.0(SPAD35)以下で窒素成分 2kg 葉色4.0（SPAD35）以上　　無施用
	第2回	第1回目穂肥の8日後	葉色3.5（SPAD32）以下　　2kg 葉色3.5～4.0(SPAD32～35)　　1kg 葉色4.0（SPAD35）以上　　無施用
きぬむすめ 日 本 晴	第1回	幼穂長1mm （出穂前25日）	葉色4.5（SPAD38）以下　　3kg
	第2回	第1回目穂肥の10日後	葉色5.0（SPAD41）以下　　2kg

草丈 cm	幼穂形成期茎数　本／㎡			
	460	490	510	530
70	1	3	5	7
75	7	9	11	12
80	13	15	17	18

注）単葉葉色は最上位の完全展開葉を測定する

（4）基肥一発肥料で葉色が低下した場合

基肥一発肥料、育苗箱専用肥料等により一発型施肥を行ったほ場では、高温年には肥料成分が早期に溶出し穂肥としての効果が期待できない場合があるので葉色に応じて穂肥を施用する。

第2穂肥の頃まで待っても葉色が極めて淡い場合は、
（「コシヒカリ」SPAD 値 32 以下、「ひとめぼれ」同37以下「きぬむすめ」同 41 以下）

「コシヒカリ」「ひとめぼれ」は窒素 1kg/10a 程度、

「きぬむすめ」「日本晴」は窒素 2kg/10a 程度

の追肥を行う。これにより、白濁粒の発生が軽減し品質が向上し、かつ食味も低下しない試験事例がある。

葉色低下の際には診断に従って追肥を行う。
但し、元肥一発肥料の「星空舞」は、原則として穂肥は施用しない。

鳥取県産米改良協会
鳥取県農業試験場

田植時期別の幼形期予測について （令和4年6月28日現在）

令和2年度から、鳥取県産米改良協会では、鳥取県農業試験場の研究成果を活用し、生育予測について情報提供を行っています。（毎週水曜日更新予定）
令和2年度から幼形期予測については、発育指数を用いた手法で研究を行ってきました。令和4年度も引き続き、情報提供を行い、ご意見・ご要望をいただきながら、今後の改善に繋げていきたいと思います。

【情報を活用する上での注意点】
○ここでの幼形期は、発育指数で、幼穂長1mmとなる日のことです。
○1kmメッシュの気温を用いて、きぬむすめ生育予測モデル式に当てはめて幼形期を予測しています（現地での誤差確認を行っていますが、予測日の推定精度は概ね±2日以下となっています）。
○あくまでも目安であり、地形、かんがい水温などのほ場条件、水管理、施肥などの栽培条件等によっては誤差がでることがあります。

【現時点での状況】

○農試作況田の直近5年間の平均幼形期と比較した結果は、以下のとおりです。

農試作況田（標高9m）での予測

		R4予測日	直近5年平均	備考
ひとめぼれ	5月11日移植	6月30日	7月1日	1日早い
コシヒカリ	5月11日移植	7月4日	7月5日	1日早い
	5月25日移植	7月13日	7月12日	1日遅い
きぬむすめ	5月25日移植	7月25日	7月25日	平均並み

【ひとめぼれの予測幼穂形成期】

標高	田植時期			
	4月30日	5月10日	5月20日	5月30日
0～49m	6月25日	6月28日	7月3日	7月10日
50～99m	6月26日	6月29日	7月4日	7月11日
100～149m	6月28日	6月30日	7月5日	7月12日
150～199m	6月29日	7月1日	7月6日	7月12日
200～249m	6月30日	7月3日	7月7日	―
250～299m	7月2日	7月4日	7月8日	―
300～349m	7月3日	7月5日	7月9日	―
350～399m	7月4日	7月6日	7月9日	―
上記予測日の範囲	±3日	±2日	±2日	±1日

【コシヒカリの予測幼穂形成期】

標高	田植時期				
	4月30日	5月10日	5月20日	5月30日	6月10日
0～49m	6月29日	7月3日	7月9日	7月17日	7月19日
50～99m	7月1日	7月4日	7月10日	7月18日	7月20日
100～149m	7月2日	7月5日	7月11日	7月18日	―
150～199m	7月4日	7月7日	7月12日	7月19日	―
200～249m	7月5日	7月8日	7月13日	―	―
250～299m	7月7日	7月9日	7月14日	―	―
300～349m	7月8日	7月10日	7月15日	―	―
350～399m	7月9日	7月11日	7月15日	―	―
上記予測日の範囲	±3日	±2日	±2日	±1日	±1日

【きぬむすめの予測幼穂形成期】

標高	田植日				
	5月10日	5月20日	5月30日	6月10日	6月20日
0～49m	7月14日	7月21日	7月28日	7月30日	8月4日
50～99m	7月15日	7月22日	7月28日	7月30日	8月4日
100～149m	7月16日	7月23日	7月28日	―	―
150～199m	7月17日	7月23日	7月29日	―	―
上記予測日の範囲	±2日	±2日	±1日	±1日	±1日

【その他】
・幼形期予測は、発育速度を算出する生育予測モデル式（堀江・中川1990）を参考にして行っていま
・用いた気象データは、予測当日まではアメダス観測地点の実測、翌日～1ヶ月先までは気象庁の1ヶ月予報、1ヶ月先以降は平年値データを1kmメッシュごとに展開したデータを活用。
・5月移植の予測は稚苗移植、6月移植は中苗移植で算出。
・出穂期予測に必要な気象データは、農研機構と㈱ライフビジネスウェザーが共同開発し、㈱ライフビジネスウェザーが提供するメッシュ農業気象システムの気象データを用いています。
・幼形期を予測したいほ場の標高は、地図等で検索してください。

【星空舞の予測幼穂形成期】
・星空舞の幼穂形成期は、コシヒカリの幼穂形成期の5日後を目安にしてください（5月下旬移植の場合）。

鳥取県産米改良協会
鳥取県農業試験場

田植時期別の出穂期予測について （令和4年6月28日現在）

令和2年度から、鳥取県産米改良協会では、鳥取県農業試験場の研究成果を活用し、幼穂形成期、出穂期、刈取適期の予測について情報提供を行います。（毎週水曜日更新予定）
出穂期、刈取適期の予測を行いますので、追肥・出穂前後の防除等の作業計画、適期収穫を目指した収穫作業計画の参考として活用してください。
なお、収穫適期予測については、8月上旬から提供予定です。

【情報を活用する上での注意点】
○出穂期は、ほ場の約50%が出穂している状況のことです。穂揃期と異なります。
○アメダスの実測値及び1ヶ月予報値を基に各1kmメッシュの気温を推定し、この数値を品種ごとの生育予測モデル式に当てはめて出穂期を予測しています。（現地での確認を行いましたが、予測日の推定精度は概ね±2日以下となっています）
○あくまでも目安であり、地形、かんがい水温などのほ場条件、水管理、施肥などの栽培条件等によっては誤差がでることがあります。

【現時点での状況】

○5月25日移植の「コシヒカリ」は、農試作況田の直近5年間の平均出穂期と比較して、平均並みです。
○5月25日移植の「きぬむすめ」は、農試作況田の直近5年間の平均出穂期と比較して、1日遅れています。
○5月11日移植の「ひとめぼれ」・「コシヒカリ」は、農試作況田の直近5年間の平均出穂期と比較して、1日早くなっています。
○5月25日移植の「星空舞」は、農試作況田の直近5年間の平均出穂期と比較して、1日早くなっています。

農試作況田での予測

	R4予測日	直近5年平均	備考
ひとめぼれ　5月11日移植	7月22日	7月23日	1日早い
コシヒカリ　5月11日移植	7月26日	7月27日	1日早い
コシヒカリ　5月25日移植	8月3日	8月3日	平均並み
星空舞　5月25日移植	8月7日	8月8日	1日早い
きぬむすめ　5月25日移植	8月15日	8月14日	1日遅い

【ひとめぼれの予測出穂期】

標高	田植日			
	4月30日	5月10日	5月20日	5月30日
0～49m	7月17日	7月20日	7月25日	8月1日
50～99m	7月19日	7月22日	7月27日	8月2日
100～149m	7月20日	7月23日	7月27日	8月3日
150～199m	7月22日	7月24日	7月28日	8月3日
200～249m	7月23日	7月26日	7月30日	―
250～299m	7月25日	7月27日	7月31日	―
300～349m	7月26日	7月28日	8月1日	―
350～399m	7月27日	7月29日	8月1日	―
上記予測日の範囲	±3日	±3日	±2日	±2日

【コシヒカリの予測出穂期】

標高	田植日				
	4月30日	5月10日	5月20日	5月30日	6月10日
0～49m	7月21日	7月25日	7月30日	8月6日	8月8日
50～99m	7月23日	7月26日	7月31日	8月6日	8月8日
100～149m	7月24日	7月27日	8月1日	8月7日	―
150～199m	7月25日	7月28日	8月2日	8月7日	―
200～249m	7月27日	7月29日	8月2日	―	―
250～299m	7月28日	7月30日	8月3日	―	―
300～349m	7月29日	7月31日	8月4日	―	―
350～399m	7月30日	8月1日	8月5日	―	―
上記予測日の範囲	±3日	±2日	±2日	±1日	±1日

【星空舞の予測出穂期】

標高	田植日			
	5月10日	5月20日	5月30日	6月10日
0～49m	7月29日	8月4日	8月9日	8月13日
50～99m	7月30日	8月5日	8月10日	8月13日
100～149m	7月31日	8月5日	8月10日	―
150～199m	7月31日	8月5日	8月10日	―
200～249m	8月1日	8月6日	―	―
250～299m	8月2日	8月6日	―	―
上記予測日の範囲	±2日	±1日	±1日	±1日

【きぬむすめの予測出穂期】

標高	田植日				
	5月10日	5月20日	5月30日	6月10日	6月20日
0～49m					
50～99m					
100～149m					
150～199m					
上記予測日の範囲	±2日	±2日	±1日	±1日	±1日

7月中旬　公開予定

【その他】

・出穂期予測は、発育速度を算出する生育予測モデル式（堀江・中川1990）を参考にして出穂期予測を行っています。

・用いた気象データは、予測当日まではアメダス観測地点の実測、翌日～1ヶ月先までは気象庁の1ヶ月予報、1ヶ月先以降は平年値データを1kmメッシュごとに展開したデータを活用。

・5/10～5/30の予測は稚苗移植、6/10は中苗移植で算出。

・出穂期予測に必要な気象データは、農研機構と㈱ライフビジネスウェザーが共同開発し、㈱ライフビジネスウェザーが提供するメッシュ農業気象システムの気象データを用いています。

・出穂期を予測したいほ場の標高は、地図等で検索してください。

【星空舞の予測出穂期】

・星空舞の出穂期は、コシヒカリの出穂期の5日後を目安にしてください（5月下旬移植の場合）。

【参考1】 穂肥時期の目安

【第1穂肥の時期】

○第1穂肥の時期は、幼穂長で判断する。幼穂形成期予測の時期が近づいたら実際ほ場で幼穂長を確認すること。

○水口を避け、畦際から4条以上ほ場内に入って(周縁効果も避け)平均的な株の最長茎について計測する。株による変動もあるため複数茎むいてみること。

図1:出穂 25 日前

きぬむすめ
穂肥1回目時期

図2:出穂 18 日前

コシヒカリ・星空舞
穂肥1回目時期

【第2穂肥の時期】

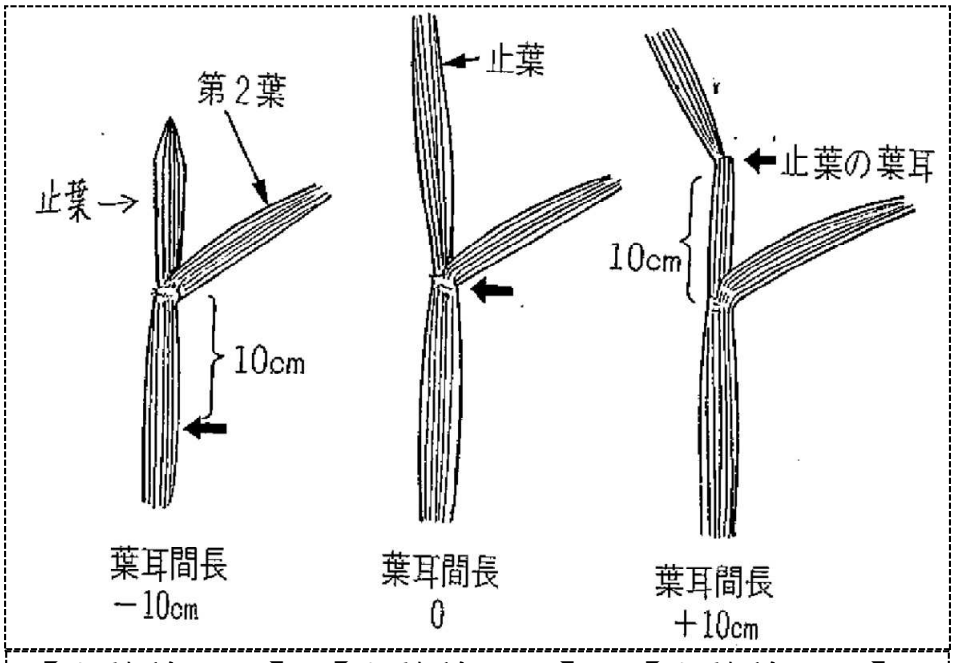
○幼穂長ではなく、外観、具体的には葉耳間長で出穂前日数を判断し、第2穂肥施用時期を決定する。

○当該葉耳間長の茎が全体の8割程度となったら第2穂肥施用時期とする。

例)コシヒカリにおいては、葉耳間長0cmの茎が全体の8割となった頃が第2穂肥の時期

○第1穂肥の施用後日数の判断でもよい

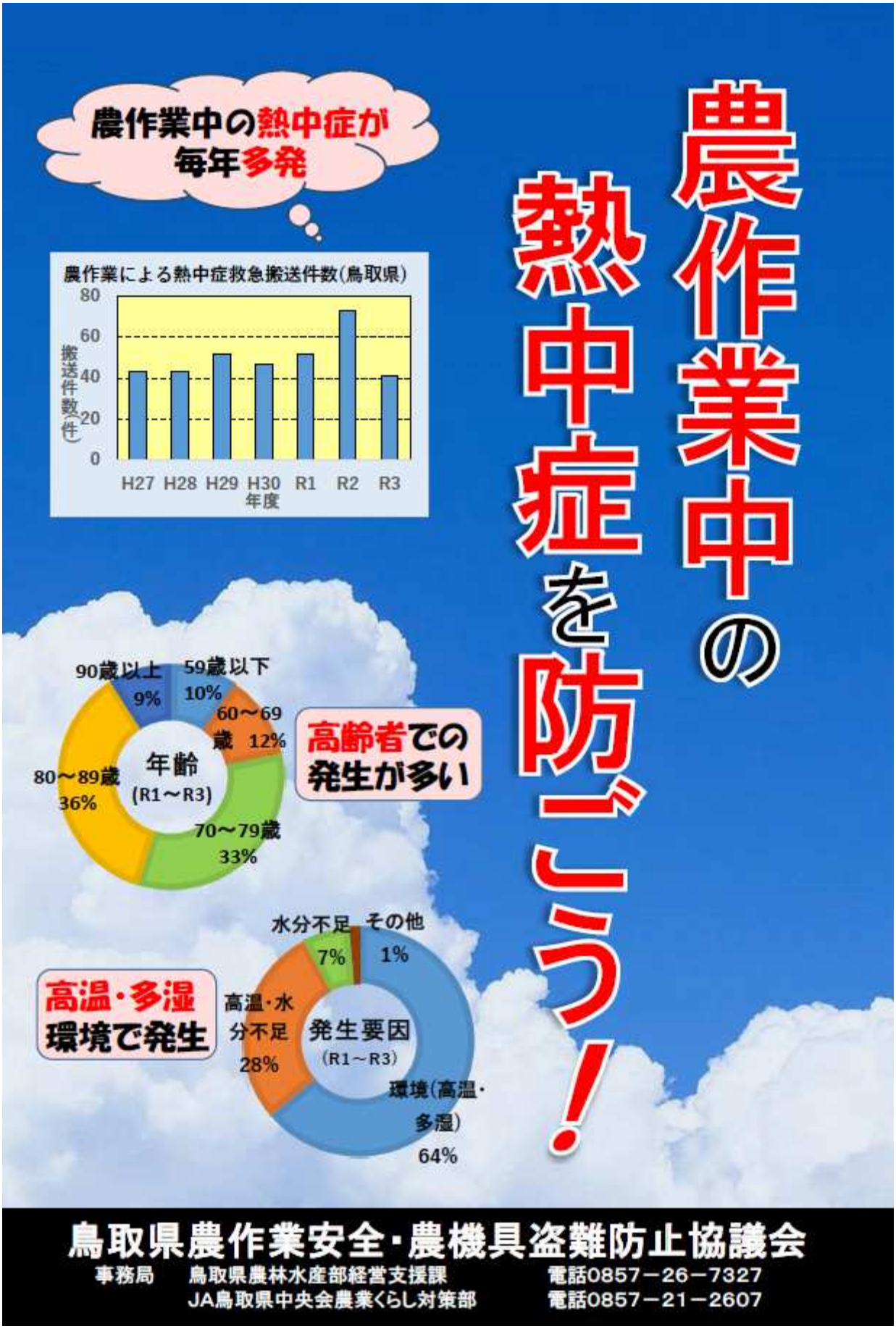
例)きぬむすめは、第1穂肥を施用してから10日後に第2穂肥を施用する。



きぬむすめ
穂肥２回目時期

ひとめぼれ・コシヒカリ・星空舞
穂肥２回目頃の時期

引き続き、農作業安全と熱中症防止に留意しましょう



農作業中の熱中症の予防管理

○ 高温時の作業を避けましょう

- 最高気温30℃以上が予想される場合、熱中症警報が出されます。
- 県の「あんしんトリピーメール」や農林水産省の「MAFFアプリ」に登録しておくと、スマートフォンに情報が提供されます。

○ こまめに休憩し、水分を補給しましょう

- 農作業には必ず水、氷（保冷剤）や濡れタオルなどを持参しましょう。
- 涼しい日陰等で休憩し、20分ごとに コップ1～2杯の水分と適宜塩分も補給しましょう。

○ 涼しい服装で、適宜マスクを外しましょう

- 農作業の際は帽子を着用し、汗を吸いやすく乾きやすい素材の衣服を着用しましょう。
- 屋外やハウスで、人と十分な距離（2m以上）が確保できるときはマスクを外しましょう。

○ 作業は2人以上で行いましょう

- 1人での作業はできるだけ避けましょう。
- 1人で作業する場合は、必ず、家族などに作業場所と帰宅予定時刻を伝えましょう。

○ 日頃から健康管理を行いましょう

- 「おしっこカラーチャート」で自身のカラダの脱水状態を確認して、水分補給を行います。
- 睡眠不足、体調不良、前日などの飲酒、朝食の未摂取、発熱、下痢などによる脱水などは、熱中症の発症に影響を与えるおそれがあります。

熱中症に注意 !!

おしっこカラーチャート

おしっこは、体の情報が盛り沢山!!

おしっこの色は何番ですか？

もしも3番以上の場合は、

「水分と塩分の補給」が必要です

尿の色	からだの状態と対応	
1	正常	水分補給は、十分です。 予防のために計画的に水分補給をしましょう
2		
3		脱水症への傾向があります。 補給の頻度を増やすこと
4	注意	
5		脱水症です。 水分補給が必要です。 口から補給できますか？
6		
7	危険	重度の脱水症です。 危険な状態です。 直ぐに病院へ
8		

鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会

協議会からのお知らせ

【農作業安全研修の実施希望について】

県内では毎年死亡事故を含め農作業事故が発生しています。特に死亡事故は家族にとどまらず、地域農業や法人経営に大きな影響を及ぼします。

このため、協議会では集落営農組織、法人等を対象にした研修（対話型研修）の推進を図り、生産者の安全意識の向上と農作業安全の取り組みを一層進めることとしました。

研修を希望される方、また詳しく知りたい方は県協議会事務局へお問い合わせください。

＜対話型研修とは＞

日頃危険と感じている作業・機械操作・施設等について、生産者自ら仲間と情報共有しながら、安全対策についても話し合いを行います。これを基にして組織や仲間での「安全対策」を定めて、みんなで一緒に取り組んでいただくきっかけとするものです。